

第1回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会が開催されました

平成22年10月25日（月）13:00～15:00に、埼玉県加須市の国土交通省関東地方整備局 利根川上流河川事務所 渡良瀬遊水池出張所において「第1回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会」が開催されました。

◆モニタリング委員会設置の背景

平成14年6月に設置された「渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会」における検討結果を、平成22年3月に『渡良瀬遊水地湿地保全・再生基本計画』として取りまとめました。今後は、この基本計画に基づき、渡良瀬遊水地の湿地を保全・再生するために掘削を実施します。

モニタリング委員会は、渡良瀬遊水地の良好な湿地環境の保全・再生を順調に進めるため、順応的な管理のもとで段階的に掘削を実施するにあたり必要なモニタリング調査の方法について議論するとともに、実際のモニタリング結果の評価を行い適切に保全・再生手法に反映するために設置されました。

○委員会名簿(五十音順、敬称略)

- 【出席】青木 章彦 作新学院大学女子短期大学部 教授（環境学習、植物）
- 【出席】一色 安義 渡良瀬遊水池野鳥観察会 会長（鳥類）
- 【出席】大川 秀雄 とちぎ昆虫愛好会 会員（昆虫）
- 【出席】大和田 真澄 栃木県植物研究会 会員（植物）
- 【欠席】清水 義彦 群馬大学大学院 教授（河川工学）
- 【出席】高松 健比古 渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会
代表世話人（渡良瀬遊水地の自然全般、鳥類）
- 【出席】守田 優 芝浦工業大学 教授（地下水）

◆モニタリング委員会の概要

今回は全委員 7 人中 6 人の出席を得ました。最初に事務局より委員紹介と設立趣旨説明があり、委員会規約について承認をいただきました。次いで、モニタリング計画（案）について説明があり、モニタリング調査の項目等についてさまざまな角度から活発な議論がなされました。また、現在行われている環境調査について現状報告がなされ、助言やご指導をいただきました。今後、今回の議論を踏まえて、具体的なモニタリング計画を取りまとめます。

【委員会の様子】



○委員での検討内容（抜粋）

意見：本事業の目的は、生物多様性の維持・増大をメインと考えて良いのか。

応答：生物多様性を育てていく事業であり、治水についても係わってくる。

意見：各委員からの意見で、湿地環境の再生には人為的な攪乱が大切である。

意見：掘削前のモニタリング調査はとても重要である。

応答：今後の調査で不足項目などあれば補足します。

その他、各専門分野から注意点や補足事項についてご意見をいただきましたので、具体的なモニタリング計画として取りまとめます。

◆現地視察

委員会後には、試験施工エリアで掘削中の環境学習フィールドと平成20に施工した湿性草地再生実験地の現地視察を行いました。

【現地視察の様子】

◆試験施工地（環境学習フィールド）



◆湿性草地再生実験地

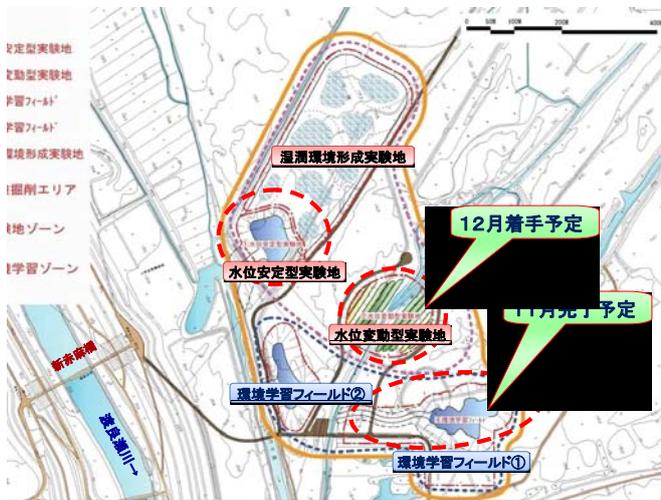


現地では、環境学習フィールドでの湿地環境の再生状況や環境学習の実績などについての説明を行いました。また、湿地植生の再生手法および外来植物種抑制手法等の検討を目的として実験・モニタリングを実施している湿性草地再生実験地について説明を行い、掘削後の地下水湧出状況や植生再生状況、実験地におけるセイタカアワダチソウの抑制状況等を確認しました。

◆渡良瀬遊水地トピックス

現在掘削を進めております渡良瀬遊水地第2調節池の試験施工エリアについて、本年度の掘削状況は下図の通りとなっております。試験施工エリア内に設置予定の合計5つの実験地などのうち、環境学習フィールド①の掘削が平成22年11月中に完成、その後12月より水位変動型実験地の掘削に着手する予定となっております。

【試験施工エリア掘削の進捗状況】



【環境学習フィールド①の現況】



掘削が進む環境学習フィールド①において、7月に宇都宮大学、栃木農業高校、下都賀漁協のご協力により、環境学習の一環として魚類の簡易調査を行いました。また、9月には施工業者による魚類退避のための捕獲を行いました。この2回の調査にて、5科13種の魚類が確認されました。また、ドブガイと思われる二枚貝や、トンボ類（ヤゴ）、ゲンゴロウ類などの水生生物が確認されました。

【ツチフキ】



【メダカ】

